本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIOTRON
コンピュータウオッチ カシオトロン クロノグラフ100
1/100秒・60分計ストップウオッチつき
(通常計測・積算計測・ラップ計測・1,2着同時計測)
38CR-12B・38CS-14B・14B1シリーズ

使用説明書

■使用上のご注意

カシオトロンをいつまでも高精度でご愛用いただくため、下記の点を特にご留意ください。

(1) 極端に高い温度や、極端に低い温度条件下ではご使用にならないでください。機能が低下したり電池寿命を短くしたりする恐れがあります。

(2) 水が入りにくい構造になっていますが、精密な電子回路や部品を保護するために、入浴や海水浴、洗車時などの不確定な水圧が加わる恐れのあるときのご使用は避けてください。

(3) 通常の使用状態でのショックには耐えるよう設計されていますが、落としたり強い衝撃を与えますと故障の原因となりますので十分ご注意ください。

(4) この腕時計は、C/MOS-LSIや水晶振動子、それに液晶パネルなどの精密パーツで構成され組立てられていますので、時計の内部には絶対手をふれないでください。

(5) このカシオトロンを腕から外したり、長期にわたってお使いにならないときは…

(a) 寒冷地や夏場の直射日光が当る場所には放置しないでください。

(b) 水蒸気がたったり、たちこめるような湿気が極端に多い場所で長時間放置したり、保存しないでください。

(c) 消耗した電池を入れたままにしておきますと、故障の原因になります。長時間お使いにならないときは電池を抜くか、規定寿命ごとに電池を入れかえながら保存してください。なお、電池の出し入れは絶対にご自分でなさらないでください。

(6) ボタン操作は確実におこなってください。

(7) このカシオトロンに使用しているメタルバンドも汗やホコリでよごれます。汗をかいたときは、吸湿性の良い布などで水分を取り除いてください。また、ときどきは柔らかい歯ブラシ等を使い石けん水で部分洗いなどのお手入れをお願いします。(その際、時計本体には水がかからないようご注意ください。)

■電池交換について

最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、規定寿命に満たないうちに寿命がきれることがあります。

電池が消耗しますと「内部照明のライトが点灯しなくなったり」「急に遅れが目立ったり」「表示が消えたり」「見にくくなります」このような症状があらわれたら電池交換を行ってください。

新しい電池とお取りかえいただきますとその後、規定寿命の間ご使用になれます。

電池交換は、精度や寿命、気密性の維持上必らずお求めのお店かお近くのカシオトロン取扱い店あるいは当社営業所・出張所・サービスセンターにお申しつけいただき当社指定のカシオトロン専用電池と交換してください。

カシオトロン専用電池以外の電池をご使用しますと時計の正常な働きをさまたげ、故障の原因ともなりますのでご注意ください。

■液晶パネルの交換について

この時計には高品質のFE型液晶パネルを使用しておりますが、液晶はその性格上5年すぎますと、コントラストが低下したり、読みにくくなることがあります。その場合はお買いあげ店、またはカシオトロン取扱店へ交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

■製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz

常温携帯精度：平均月差±15秒以内

表示方式：FE型液晶デジタル表示

表示内容：時刻表示―時・分・秒・午前／午後(午後：Pが点灯)
カレンダー表示―月・日・曜日(アルファニュメリック表示)
2月28日制オートカレンダー
ストップウオッチ表示―分・秒・1/100秒，ST，LAP

ストップウオッチ機構：計測単位―1/100秒
計測範囲―59分59秒99(以後0に戻り自動スタート)
計測機能―通常計測・積算計測・ラップ計測・1,2着同時計測

セット機構：時刻セット機構　時差修正機構
カレンダーセット機構　ストップウオッチセット機構
秒合わせ機構（±30秒クリア）

主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ワンチップC／MOS-LSI

使用電池及び寿命：酸化銀電池(UCC-393)1個　約18ヵ月（38CR-12Bシリーズ）
酸化銀電池(UCC-392)1個　約12ヵ月（38CS-14Bシリーズ）
(いずれも内部照明毎日1秒間5回点灯)
電池別途販売

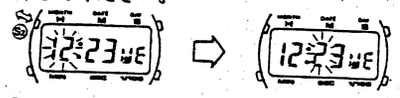
■カレンダーの合わせ方

例：12月2日(金)に合わせる場合

(1) Ⓢ1ボタンを押しカレンダー表示にしたまま Ⓢ2ボタンを押してください。

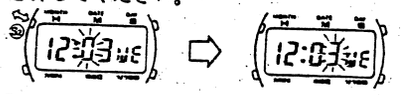
「月」表示が点滅しながら、1～12の間を進みます。

(2)「月」表示が「12」になったら、Ⓢ2ボタンを押してください。



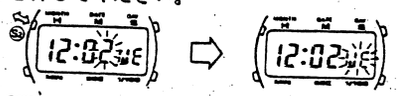
「10日台」表示が点滅しながら0～3の間を進みます。

(3)「10日台」表示が「0」になったら、Ⓢ2ボタンを押してください。



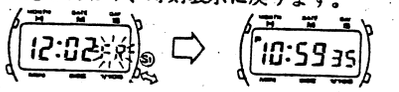
「1日台」表示が点滅しながら0～9の間を進みます。

(4)「1日台」表示が「2」になったら、Ⓢ2ボタンを押してください。



「曜日」表示が点滅しながら、SU(日)～SA(土)の間を進みます。

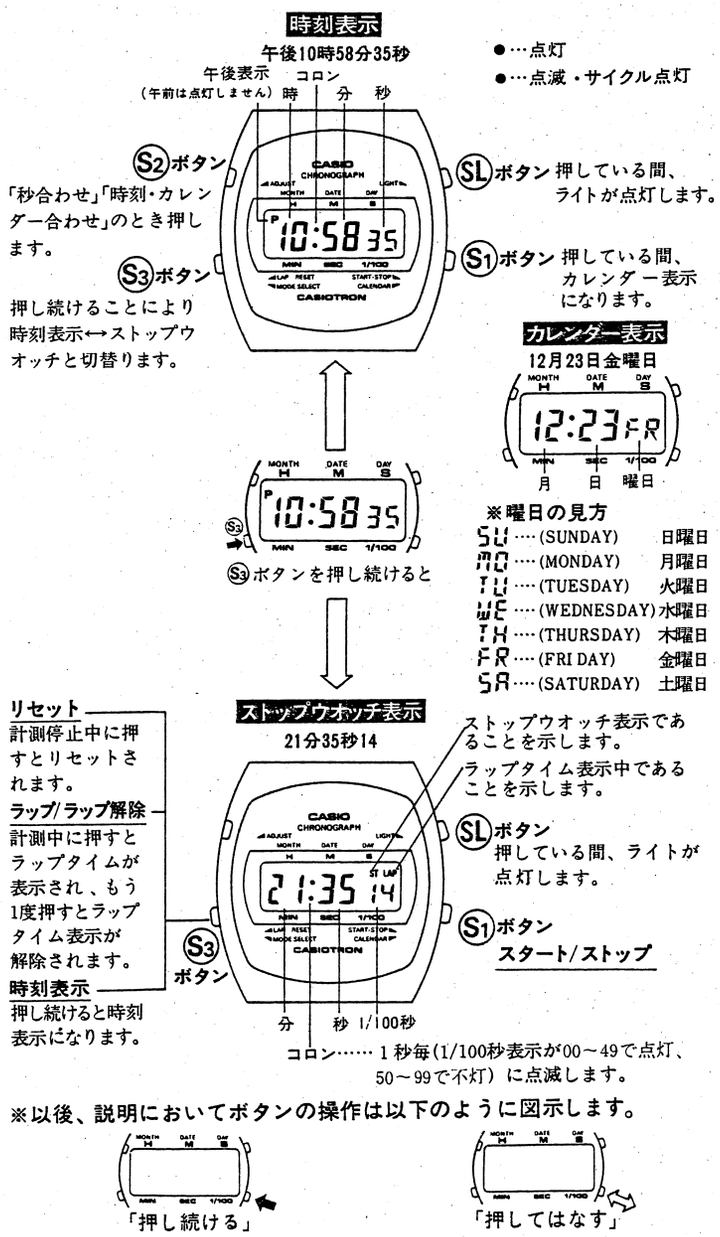
(5)「曜日」表示が「FR」になったら、Ⓢ1ボタンを押してください。これで「カレンダー合わせ」は終わり、時刻表示に戻ります。



表示は時刻表示になります。

※操作(2)～(4)において、Ⓢ2ボタンを押すかわりにⓈ1ボタンを押せば、その操作で修正は完了し時刻表示に戻ります。この場合、修正しなかった個所はもとの表示のままです。

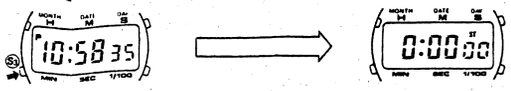
■表示の見方と操作のしくみ



※以後、説明においてボタンの操作は以下のように図示します。

●ストップウオッチにするには

時刻表示のとき(S2)ボタンを押し続けるとストップウオッチ表示になります。



●操作方法

通常の計測（例）100ｍ走の計測



〈スタート〉 (S1) ボタンを押す

100mタイム 12秒45

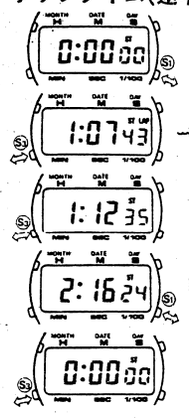
〈ストップ〉 (S1) ボタンを押す

〈リセット〉 (S3) ボタンを押す

※ロスタイムがある場合(積算計測のしかた)

ストップ後リセットせずに再スタート（(S1)ボタンを押す）すれば、表示タイムに引き続き計測をはじめます。

ラップタイム(途中経過時間)の計測（例）200ｍ自由形のラップ計測



〈スタート〉 (S1) ボタンを押す

100mラップ 1分7秒43

〈ラップ計測〉 (S3) ボタンを押す

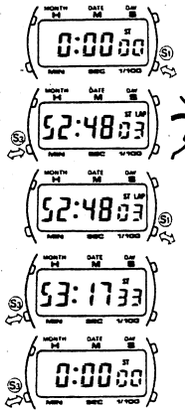
〈ラップ解除〉 (S3) ボタンを押す

最終タイム 2分16秒24

〈ストップ〉 (S1) ボタンを押す

〈リセット〉 (S3) ボタンを押す

1着・2着のタイム計測（例）10,000ｍ走で1着、2着のタイムを測る。



〈スタート〉 (S1) ボタンを押す

1着のタイム 52分48秒03

〈1着がゴール〉 (S3) ボタンを押す

〈2着がゴール〉 (S1) ボタンを押す

2着のタイム 53分17秒33

(S3) ボタンを押すと2着のタイムが表示されます。

〈リセット〉 (S3) ボタンを押す

●ストップウオッチ計測中に時刻を見るには

計測中に(S3)ボタンを押し続けますと、表示はいったんラップ表示になったあと時刻表示になります。この間も正確に計測を続けており、再び(S3)ボタンを押し続けますとストップウオッチ表示に戻ります。



※ラップ計測時(ラップマークが点灯しているとき)に、この操作をしますとラップが解除されたのち時刻表示になります。

●計測可能時間

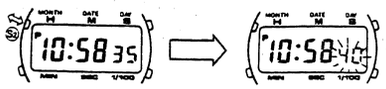
最大59分59秒99まで計測可能です。それを越えると再度0秒より自動スタートします。

■秒の合わせ方(30秒以内の遅れ、進みの合わせ方)

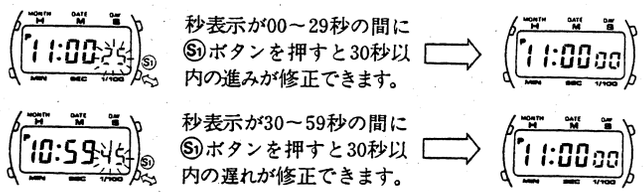
この時計をより正確にお使いいただくために、月に一度、この「秒合わせ」をしていただきますと、いつも正確です。

（1）時刻表示のとき、(S2)ボタンを押すと、秒表示が点滅します。

このボタンを押すときは、キズのつきにくい棒状のもの(ボールペンなど)で押してください。



（2）時報の「ポーン」に合わせて(S1)ボタンを押すと下図の様にピタリ合います。



秒表示が00～29秒の間に(S1)ボタンを押すと30秒以内の進みが修正できます。

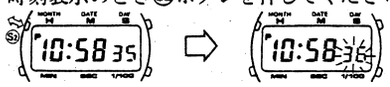
秒表示が30～59秒の間に(S1)ボタンを押すと30秒以内の遅れが修正できます。

（秒合わせは分単位でできます。時報は電話117番が便利です。）

■時刻の合わせ方

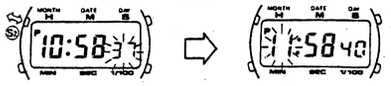
例：午後3時45分に合わせる場合

（1）時刻表示のとき(S2)ボタンを押してください。



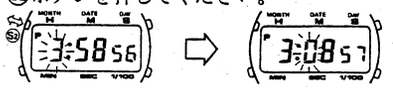
「秒」表示が点滅しながら進む「秒合わせ」の状態になります。

（2）もう1度(S2)ボタンを押してください。



「時」表示が点滅しながら進みます。午後表示(P)は12時をすぎるごとに灯いたり消えたりします。

（3）午後表示(P)のついた「3」になったら(S2)ボタンを押してください。

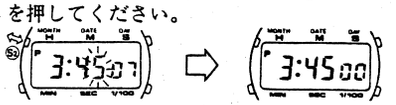


「10分台」表示が点滅しながら、0～5の間を進みます。

（4）「10分台」表示が「4」になったら(S2)ボタンを押してください。

「1分台」表示が点滅しながら0～9の間を進みます。

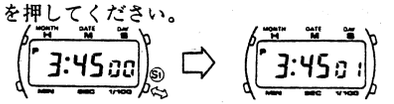
（5）「1分台」表示が「5」になったら(S2)ボタンを押してください。



秒表示が「00」になり表示時刻でカウントが停止します。

※このとき、次の「時報合わせ」のために、現時刻より1分程度先にセットしてください。

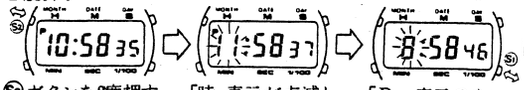
（6）午後3時45分の時報に合わせて、(S1)ボタンを押してください。



(S1)ボタンを押した瞬間からカウントをはじめます。

※操作（2）～（5）において、(S2)ボタンを押すかわりに(S1)ボタンを押せばその操作で修正は完了し、時刻表示に戻ります。この場合、修正しなかった個所はもとの表示のままです。

(例)時差修正——午後10時58分(日本時間)を午前8時58分(ニューヨーク時間)に修正するには以下の様に操作します。



2度押す

(S2)ボタンを2度押す。

「時」表示が点滅しながら進みます。

「P」表示のない、「8」になったら(S1)ボタンを押します。

時刻表示に戻ります。「時」以外は修正されません。